



藤枝市立西益津小学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年5月25日(木)



「考古学としての仕事の話もしていただき、社会科だけではなく、総合的な学習の時間のキャリア学習にもなりました。」

藤枝市立西益津小学校の6年生75人が、社会科の授業で、火起こしや石器の試し切りの体験を通して、当時の暮らしの様子を知ることが出来、現代の生活との違いを感じることで、当時の人々の思いを想像することが出来ることを目的に、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験



縄文土器・弥生土器・須恵器の3つの完形土器と土器片を見比べて分類しました。土器の厚さや色、感触、文様などの特徴をよく見て、班の人と意見交換しながら大方は分けられました。弥生土器と須恵器の見極めが難しく、作り方の説明を聞くと、自信をもって分けられました。

「須恵器という土器を初めて知れた。」



「形や色が違ってびっくりした。」



石器の試し切り体験



石器の試し切りをする前に、石器の必要性などを学びました。打製石斧や磨製石斧の本物を見ると驚いていました。また、黒曜石の塊を持って、とても重そうにしていた。新聞紙や野菜などを黒曜石で切ってみたところ、思いのほかよく切れたので驚いていました。

「石器が思っていた以上に切れて驚いた。」



火起こし体験



もみきり法や弓きり法、舞きり法などの火起こしの歴史を学びました。舞きり法での火起こしは、思っていた以上に大変で、力と根気があることがわかったようです。それでも、弾み車を調子よく回し、火種を作ると、フーフータイムもなんとかクリアし、火を起すことができました。

「昔の人の大変さがよくわかった。」



先生方の感想

「縄文・弥生・古墳時代の授業で学んだことを、お話と体験で深めることが出来ました。それぞれの体験の説明も丁寧でわかりやすく、子どももしっかり聞いていました。考古学としての仕事の話もしていただき、社会科だけではなく、総合的な学習の時間のキャリア学習にもなりました。」